

# 地学協働

06

2023年03月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

## 1 決定！！「北海道地学協働アワード2022」各賞の受賞校

2月15日（水）に開催しました「北海道CLASSプロジェクト『地学協働活動推進フォーラム』」のプログラムとして「北海道地学協働アワード2022」の審査結果を発表するとともに、受賞校の中からグランプリ・準グランプリを受賞した3校の皆様に取り組内容や成果を発表していただきましたので、その様子をご紹介します。

賞	学校名
グランプリ	北海道倶知安農業高等学校
準グランプリ	市立札幌藻岩高等学校
	北海道静内農業高等学校
特別賞	北海道岩見沢農業高等学校
	北海道大空高等学校
	市立札幌みなみの杜高等支援学校
	北海道千歳高等学校
	北海道本別高等学校
	北海道夕張高等学校

※各賞における順番は五十音順です。

「地学協働アワード2022」発表会では、応募のあった25校について審査を行った結果、左のとおり受賞校を決定したことを発表しました。

発表会の進行・講評では、「北海道地学協働活動推進会議」構成員の八雲町教育委員会社会教育主事の川口絢未さんと「北海道地学協働アドバイザー」の比布町教育委員会教育指導主事兼生涯学習アドバイザーの森野憲仁さんにご協力をいただきました。（左下の写真）

審査の結果発表の後には、グランプリ、準グランプリを受賞した3校の担当の先生や生徒の皆さんから、それぞれ取組内容をご発表いただきました。（3校の取組内容は次のページをご覧ください）

発表会の最後に、森野アドバイザーから「高等学校における地学協働は、地域とのつながりが密接であり、高等学校の活性化・魅力化は、即、地域創生につながる大事な鍵になると確信した。今後も、高等学校の教育活動の発展をお願いしたい。」などの講評がありました。



## ■ グランプリ、準グランプリを受賞した学校の取組内容を紹介します！

### グランプリ受賞 北海道倶知安農業高等学校

テーマ 倶知安をPRする特産品の開発

「日本酒プロジェクト」

倶知安農業高校では、倶知安町の地域産業の活性化に向けた取組として、現在学校が行っている栽培・加工・販売までの流れを学ぶ「フードチェーン学習」とおして、特産品づくりにつなげていきたいと考え、地元酒造業者をはじめとした様々な企業等との連携によるプロジェクトを進めています。

このプロジェクトでは、酒造好適米の栽培とその米を使った日本酒の仕込みをはじめ、商品化した日本酒のラベルデザインの作成、醸造・搾りで出た「板粕（いたかす）」を活用したお菓子のレンピの作成などを行い、関係する企業と連携して商品化・販売にまで展開しています。

審査員からは、「活気あるまちづくりと、生徒の探究的活動があいまった素晴らしい取組が展開されています。」「食品ロスの削減かつ地域の特産品の開発という一挙両得のメリットを生み出した例は、今後さらなる発展が期待できる優れた実践です。」などの評価をいただいています。



### 準グランプリ受賞 市立札幌藻岩高等学校

テーマ 社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイデアを共創することで「南区を笑顔あふれるまち」にする

札幌藻岩高校では、札幌市の中でも高齢化の進展により若年層の人口減少が進む地域に所在する高校として、総合的な探究の時間の中で、生徒が自らの興味・関心のあるテーマを設定し、地域住民との関わりを持ちながら、共に魅力あるまちづくりに携わる取組を進めています。

審査員からは、「地域の課題を自分事として捉えられる仕組みができ、地域としても学校としても未来に向けてのプラスになっていると感じられ、素晴らしいプロセスだと思

います。」などの評価をいただいています。

「クマとの共存」をテーマにしたグループの活動の様子



### 準グランプリ受賞 北海道静内農業高等学校

テーマ 地域資源を活用した商品開発（桜の町のイコロ(宝物)～町の魅力を発信する商品開発プロジェクト）

静内農業高校では、新ひだか町が定める町の総合戦略において、地域の活性化を目的として町の優れた資源を活用した特産品開発が求められていることから、地元農業高校生においても町の発展に寄与する特産品開発（商品開発）を行いたいと考え、取組を進めています。

審査員からは、「町の総合戦略とマッチングさせた取組」「地域資源を活かした商品開発を通じて、生徒さんが地域と向き合う重要性や学習の成果を認

識できた点が優れています。」などの評価をいただいています。

HTBまつりでの販売の様子





「北海道CLASSプロジェクト」が2年目を終えようとしています。各研究指定校は、生徒や地域の実態に合わせ、様々な取組をクリエイティブに展開しています。推進校の取組は前号でお知らせしたので、今号では連携校の取組について、ご紹介します。

### 夕張高等学校

「夕張産の食材を活用した新商品開発」をテーマとし、課題探究型の学習体験を通じて主体的に挑戦する姿勢や態度を身に付けることを目指して数々の活動に取り組みました。一つ一つの取組では、生徒が主体的に学べるよう、地元農作物等に関する学習（外部講師の活用）、商品開発に係る市場調査、自治体主催・共催の商品開発会議等への参加といった段階的な学習活動を実施しています。

プロジェクトにおいては、**振り返りの場の設定や生徒の意見を可能な限り反映**させるなど、生徒が意欲的にチャレンジできるプロセスを重視しています。



知事も出席した「開発商品発表会」(道庁)

### 鶴川高等学校

地域を学ぶ「むかわ学」、新しい職場体験「デュアルシステム」、大学と連携した地域課題探究型学習など、多岐にわたる取組を展開しています。

特に「むかわ学」では、地域と密接に関わることで、基礎的な知識や技能を身に付けることで、**変化の多い社会で答えのない問いに対して向き合っていく力の育成**を目指しています。学習の成果は、町民に対する提言発表や各種コンテストへの応募での発信のほか、有志による課外活動においてイベント企画や商品開発につながり、広がっており、生徒たちの「やりたい」を支える環境づくりが進んでいます。



有志による「むかわキンパ」の開発

### 豊富高等学校

豊富町では、町の魅力を発信するために、「いいとこほうふ豊富町フォトコンテスト2022」をinstagramで開催しました。

本コンテストでは、推進アドバイザーに豊富高校生が就任し、地域探究活動の中で調査・取材をして得た「豊富町の魅力」を動画にまとめ、YouTubeで発信しています。

このほか、高校生が考える地域活性化のアイデアを議会で提言するなど、**高校生が地域のことを真剣に考え、地域の人に触れる機会を意図的に設ける**ことが、将来を担う人材育成につながっています。



豊富高校3年生「地域PR班」

### 本別高等学校

「とちか創生学」として、地域理解や地域課題解決に関する探究活動に取り組んでいます。

**町の教育委員会職員(社会教育主事)がコーディネーター**として、学校や地域のニーズや思いの把握、ニーズの調整及びマッチング・活動実践、活動に関わる情報の収集・発信、活動の提案など、地域と学校の橋渡し役を担い、**たくさんの大人が高校の教育活動に参画**しています。

地元の企業や団体とコラボした「本高フィナンシェ」「カレーでナイト」は、実際に商品化され、販売しています。



高校生が考案し商品化された「カレーでナイト」

# ○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても担当しています。今号は、道内の2管内から、学校図書館の好事例を紹介します。

## 【十勝管内】生徒が集い、学び合う学校図書館（池田町立池田中学校）



### 生徒が主体となった魅力ある学校図書館づくり

夏の図書館まつりやハロウィンイベント、地域ボランティアによる読み聞かせなど、図書委員が主体的に企画を実施したことにより、生徒がイベントを機会に学校図書館に来館し本を借りるなど、読書意欲の向上に向けた取組が図られています。

### 授業の進度に合わせた関連本の選定・紹介

図書担当教諭が、調べ学習に必要な本の選定や紹介を行うとともに、計画的に図書資料を活用した授業の取組を推進したことにより、各教科や総合的な学習の調べ学習ではICT機器の使用のみならず学校図書館を計画的に利用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことができています。



## 【根室管内】子どもの「学習センター」としての図書館（羅臼町立春松小学校）



### 羅臼町内全体で学校図書館の環境整備

羅臼町では、町立知床未来中学校に在籍している学校司書が、町内の小・中学校を巡回しており、授業サポート等を行っています。また、町教育委員会と連携し、町図書館の蔵書との横断検索・相互貸出が可能となるよう管理システムを整備し、子どもの教育活動を支援しています。

### 図書館が児童の学びの拠点に

学校司書は、子どもが学習内容に関わる資料を集めて読み取り、自分の考えを発表することなどができるよう、各学級担任と連携して、月に1回程度、学級文庫を入れ替えています。また、学校図書館年間計画を基に、各学級の授業内容に関わる図書を道立図書館等からも集め、子どもの「知りたい」と思う気持ちに迅速に応えられるようにしています。



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益財団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

